

令和 3 年 6 月 10 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H00840

研究課題名(和文) 東日本大震災の診療記録統計とシステムダイナミクスに基づく災害医療効率化

研究課題名(英文) Statistics of medical records in Great East Japan Earthquake and system dynamics simulation for efficient disaster medical response.

研究代表者

江川 新一 (Shinichi, Egawa)

東北大学・災害科学国際研究所・教授

研究者番号：00270679

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,300,000円

研究成果の概要(和文)：2011年の東日本大震災後に南三陸町、気仙沼市、石巻圏の避難所などで行われた災害診療記録を倫理委員会の承認を経て匿名データベース化し、広域大規模災害後の医療ニーズをはじめて解析した。背景人口と比較して高齢・女性の避難者が診療を受けていた。医療機関をすべて失った南三陸町では人口の60%、気仙沼や石巻圏では人口の10%の総患者数であった。初診数は発災後1-2週目をピークとして2-3か月間で漸減した。高血圧などの非感染性疾患が60%を占め、呼吸器などの感染症が20%、睡眠障害などのメンタルヘルス問題が6%、軽度外傷が4%、母子保健問題が0.2%であった。医療・福祉・介護の備えるべき点を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで大災害時の医療ニーズの正確な統計は世界的にもなかった。本研究により高齢化社会で起きた東日本大震災後の医療ニーズがはじめて明らかとなった。病院が機能を失うと総人口の60%に相当する患者数が出現し、病院機能が残っている場合は10%であったことから、災害時の病院の業務継続の重要性が明らかとなった。被災地の背景人口よりも女性・高齢者の受療傾向があり、睡眠障害や褥瘡など特徴的な医療ニーズ対応の必要性がある。非感染性疾患では内服薬の情報や予備薬の確保は自助が求められる一方、平時と比較すると受療を我慢している可能性もある。感染症は平時よりも有意に多くなり感染予防と避難所の環境整備が重要である。

研究成果の概要(英文)：Anonymous database was created for the disaster medical records in evacuation centers after the 2011 Great East Japan Earthquake in Minamisanriku, Kesenuma, and Ishinomaki areas with ethical approval for human medical research to analyze the medical needs after disaster. More aged and female patients were treated than background population. In Minamisanriku, where all medical facilities were lost, 60% equivalent of population required medical care, while Kesenuma and Ishinomaki had 10%. The number of first visit peaked at 1-2 weeks after onset and gradually decreased in two to three months. Non-communicable diseases such as hypertension were 60% of all diagnoses, followed by infectious diseases especially in respiratory system (20%), mental health issues including sleep disturbance (6%), minor injuries (4%) and maternal and child health issues (0.2%). This research clarified the necessary preparedness for the medical, welfare and care needs based on the actual medical records.

研究分野：災害医学

キーワード：災害医学 医療ニーズ 東日本大震災 非感染性疾患 感染症 メンタルヘルス システムダイナミクス シミュレーション

1. 研究開始当初の背景

わが国の災害医療は、全国に 700 以上ある災害拠点病院と、1000 チーム以上ある日本 DMAT、広域搬送拠点とステージングケアユニット、広域災害救急医療情報システム (EMIS) として災害医療コーディネーターが厚生労働省によって管轄され有機的に機能する世界的にも先進的な体制である。2011 年 3 月に発生した東日本大震災では、日本 DMAT や日赤医療救護班をはじめ数多くの医療救護班が駆けつけ避難所・救護所での医療活動を行った。また、地域医療をよく知る病院職員が病院を離れて地域の在宅医療支援を行い、津波により機能停止した病院の職員が中心となってわが国における最初で最大の福祉避難所を運営するなど病院以外での保健医療活動の重要性が改めて浮き彫りになった。東日本大震災では、外傷や感染症以外に、非感染性疾患 (Non-Communicable Disease: NCD) である糖尿病、循環器疾患、慢性呼吸器疾患、がん、腎臓病などの患者がインスリンや在宅酸素のタンク、透析施設、常用薬の不足に直面し、さらに花粉症や急性上気道炎、不眠症、うつ状態などへの対応も求められた。また、リハビリテーション、母子保健やメンタルヘルス、公衆衛生のニーズも大きな課題となり、東日本大震災後に日本 DMAT の支援継続性や、災害精神医療支援チーム (DPAT)、日本リハビリテーション支援チーム (JRAT)、災害健康危機支援チーム (DHEAT) などが設立された。しかしながら、活動の根拠となるべき実際の診療記録に基づいた保健医療ニーズの統計は存在せず、病院、自治体、支援チームなどのそれぞれが診療記録を保管・管理し、解析されないままに 5 年半が経過した。1995 年の阪神淡路大震災では、避難所でどのような保健医療の支援を必要としたかというデータがまったく残っていない。東日本大震災では支援団体ごとに報告書や論文という形で統計を残しているものもあるが、全体像を把握することは極めて困難であった。世界的にも災害時の避難所での診療記録の大規模な統計は全くなく、Pubmed で “medical needs in evacuation shelter (center)” で検索すると 61 件が該当するが、避難所における医療ニーズについては日本医大チームの報告 (Fuse 2011) と、ノースカロライナ州の山火事における避難所の医療ニーズに関する論文 (Jenkins 2009) があるのみであった。

そこで、災害時の保健医療ニーズの貴重な原資料である気仙沼市立病院、南三陸病院、石巻市立病院、石巻赤十字病院に残されている避難所・福祉避難所・在宅における災害診療記録をデータベース化し、さらにそのデータを根拠として災害医療の需要と供給に関するシステムダイナミクスモデルを構築することで、ニーズを形成する要因、自助・共助を含めた支援側の要因をシミュレーションし、災害医療対応の効率化を図ることができると着想するに至った。事前調査により、気仙沼市立病院には約 6,000 件、南三陸町診療所には約 10,000 件、石巻市立病院 (遊学館福祉避難所) には約 500 件、石巻赤十字病院には約 14,000 件の災害診療記録が保管されていることが分かっていた。

2. 研究の目的

本研究の第一の目的は、南三陸病院に加えて、気仙沼市立病院および石巻市立病院、石巻赤十字病院に保管されている災害診療記録の匿名データベース化を行い、発災から避難所が終了するまでの数か月間にわたる保健医療ニーズを解析することである。それぞれの保管者とは、最新の倫理指針にもとづいて個人情報をも十分に保護するための合意形成を丁寧に進め、対象団体ごとに倫理審査を受審して、協定書を締結したのちに連結不可能匿名化の作業を開始する。

第二の目的は、データベース化と同時にシンポジウムを開催し、災害診療記録の保管・解析に関する日本 DMAT や各団体との合意形成を進めることである。災害時の避難所・福祉避難所・在宅における診療記録は、平常時の病院におけるカルテ (診療録) に相当するものであるが、災害救助法に基づく行為であること、診療を行う主体は様々な病院、大学、医師会、NGO などから派遣された医療支援チームであること、1 人の被災者の診療を違うチームが継続することもまれではないため医師法に基づく診療録とするよりは災害診療記録として扱われている (日本医師会、日本診療情報管理学会、日本集団災害医学会、日本救急医学会、JICA による『災害時の診療録のあり方に関する検討委員会』(厚生労働省オブザーバー参加)の最終報告書)。災害後に保管管理し集計・解析を行うための法的基盤が整備されておらず、資料として散逸しやすい。この点に関して合意形成することで、今後の災害診療記録解析のモデルとしていく。

第三の目的は、診療記録の実統計にもとづいて災害医療のシステムダイナミクスモデルを構築し、災害医療のニーズと支援の供給に影響を与える因子を特定することである。診療記録の統計にもとづいて仮想モデルの現実性を検証し、そこに医療支援や公衆衛生の介入モデルを加えることによりニーズの減少や迅速な収束が可能かどうかのシミュレーションを構築し、意思決定に重要な因子をあきらかにすることで、医療支援の効率化と意思決定の補助となるシステムを開発する。

3. 研究の方法

気仙沼市立病院、南三陸病院、石巻市立病院、石巻赤十字病院に保管されている東日本大震災における災害診療記録を匿名化し、被災者の性別、年齢ごとの保健医療ニーズ (疾患の分類、時期、

期間、治療（投薬、処置など）をデジタルデータベース化し、該当地域での病院以外における保健医療ニーズを明らかにする。ステークホルダーとの会議・シンポジウムを開催し、診療記録の保管・解析のあり方に関する合意形成を行う。さらに、システムダイナミクスに基づいた災害時医療のシミュレーションモデルを構築し、避難所での時間的推移を再現・予測し、意思決定の効率化を行う。具体的には以下の手順を各施設においてとる。

- (1) 災害診療記録のデータベース化、シミュレーションモデルの構築にむけた合意形成を行う。とくに石巻赤十字病院に保管されているものは石巻圏合同救護チームの全参加施設からの合意取得が前提となるため、関係したすべての診療チームに対して診療記録の統計解析にむけた意思を確認し、合意を形成する。
- (2) 合意が得られた施設の保管する診療記録についての解析について、それぞれ倫理委員会への研究審査申請を行う。倫理委員会からの承認が得られたのちに、合意が得られた施設・団体と、プライバシーマーク取得企業、東北大学災害科学国際研究所との間で、匿名化に関する協定書を締結する。
- (3) 災害診療記録をプライバシーマーク取得企業に委託し、コピーしたもものから個人情報と診療担当者に該当する部分を黒塗りして匿名化し、PDF でデジタルデータ化して 1 レコードごとに固有の番号を与える（連結不可能匿名化）。匿名化された災害診療記録画像データをデータベースソフトウェア（ファイルメーカーPro）にとりこみ、生年、年齢、性別、診療の日付、症状、診断名、治療（投薬、処置など）とその量、投与期間、転帰、入院・紹介の有無をデータ入力する。作業を半自動化して入力診断名は ICD-10 により分類し、治療薬も医薬品データベースに基づき分類する。すべての診断名を治療特性が異なる非感染性疾患（Non-Communicable Disease: NCD）、感染性疾患、メンタルヘルス問題、外傷、母子保健の 5 つのモジュールに分類する。
- (4) 一次解析は保管施設ごとに行う。東日本大震災の発災から何日目どのような症状・疾患がどれだけの頻度で発生したかを、年齢、性別、避難所などにより層別化してグラフ化する。同一の患者で診断名が短期間で複数回にわたってつけられている場合も少なくないため、初回の診断名をもって発症日とする。また、災害前からもっていた疾患であっても初回の診察日をもって発症日とする。疾患分類・症状の推移が地域性、避難所ごとに違いがあるかどうかを検討する。治療薬として用いられた薬剤を効能別に分類し、どのような薬がどの時期にどれくらいの量で必要だったかを明らかにする。外科的処置についても同様に解析する。
- (5) 地区による疾患発生の違い、支援体制の違い、使用した薬剤などの定量的な推移を比較する二次解析を行う。
- (6) 被災者の年齢と性別、疾患分類、症状、発症時期、地区ごとの特性、治療（投薬、処置など）の量と期間、継続治療の必要性などを数値化し、発災前から高齢化や過疎が問題となっていた地域性や発災前の保健医療提供体制、支援体制との関係を検討する。
- (7) システムダイナミクスのモデルに、地域の人口構成（年齢、性別）、疾患保有率、平時の医療体制、災害時の医療体制、ロジスティクス、自宅や仮設住宅への転出のスピードなどの支援側因子を組み込み、総合的な災害医療のモデルを構築する。さらに各種のパラメータを変化させたときの需要と供給の変化を把握できるインターフェースを作成し、意思決定の違いによるアウトカムの違いを検証する。

4. 研究成果

(1) 研究の倫理審査承認と合意形成による匿名化データベース構築

災害診療記録を保管している病院および管理する自治体や日本赤十字社との合意形成を行い、東北大学医学系研究科倫理審査委員会での審査ならびに承認を得た（南三陸町（倫理審査承認 2015-1-690、承認日 2016 年 1 月 25 日、更新 2020-1-845、更新日 2021 年 1 月 15 日）、気仙沼市（2017-1-314、承認日 2017 年 7 月 24 日、更新 2020-1-846、更新 2021 年 1 月 15 日）、石巻赤十字病院（2018-1-315、承認日 2018 年 7 月 23 日））。倫理審査承認後に東北大学災害科学国際研究所と、それぞれの管理団体、プライバシーマーク取得企業の三者による協定書を締結し、手書きの災害診療記録を匿名化し、デジタル画像としてとりこんだのちに、記載されている項目をデジタルデータ化した。東日本大震災後の混乱期に保管された診療記録は、重複してコピーされ保管されているものも存在したため、避難所名、初回診察日、年齢、性別と画像サムネイルをプロフィールとして重複を検索しやすくし、除去した。病名、治療薬も診療チーム独自の記載や異なる薬品名が用いられているものを ICD-10 ならびに医薬品の効能効果リストにより半自動的に分類し、震災前からの既往症、初診時病名、継続診療時の病名を判別・分類可能とするメカニズムを開発した。

(2) 南三陸町

南三陸町は津波により、震災前に存在した 1 つの病院と 4 つの診療所すべてを喪失したため、すべての診療行為が避難所や在宅で行われた。地震・津波による重症外傷は搬送された病院で治療されたことが想定され、その実態は不明である。南三陸町病院に保管されていた災害診療記録 13212 件から重複および診療記録ではないもの、まったく診察日の記載がないものなどを除いた 10464 件（18532 診断）をもとに、初回診断名に基づく疾患・モジュール分類、初診日の時間的推移を横断的に解析した。性別未記載（7%）や年齢未記載（3%）があるものの全患者の 45%が 60 歳

以上で、女性の比率がわずかに多く、背景人口との有意差はなかった。避難場所は、避難所が30.5%、自宅での診療が8.6%、地域名のみ記載が27.5%、避難場所の記載がないものが29.0%であった。発災日をDay0とすると初診数・診断数は被災地に医療支援チームが入りはじめたDay5から急増し、Day9に最多の559名・829診断となった。最も多かった診断名は、呼吸器感染症であり、高血圧、代謝性疾患、花粉症、筋・骨格系疾患、消化器疾患、消化器感染症の順に続いた。全国の年齢層別疾患罹患率と比較すると、呼吸器感染症、消化器感染症は平常時よりも有意に増加したが、慢性疾患は同率かやや受診抑制傾向があった。花粉症と不眠症は平常時の罹患率調査そのものが存在せず、季節や被災状況による影響が大きかった。NCDが医療ニーズの68%を占め、感染症が22%、メンタルヘルス問題が6%、外傷が4%、母子保健が0.2%であった(Suda et al. 2019)。また、メンタルヘルス問題のうち最も多かったのが睡眠障害であったため、背景となる年齢・性別やNCD、睡眠障害以外のメンタルヘルス問題の有無、避難場所による違い、治療薬剤などを横断的に解析した。睡眠障害以外のメンタルヘルス問題(精神疾患、不安障害)を有する492名では、睡眠障害(診断名と治療薬のいずれかが記載されているもの)が60%に達していた。睡眠障害以外のメンタルヘルス問題は、統合失調症、不安障害、双極性障害の順に多かった。高齢、女性は睡眠障害のリスク因子であったが、避難所に避難している場合には、性差、年齢にかかわらず睡眠障害のリスクが高かった。治療としては睡眠導入剤、抗不安剤が数多く使用され、急性期は短期間の投薬が継続して行われ、薬剤の流通が改善してからは長期投与もなされた(Nakamura et al. 2020)。

(3) 気仙沼市

気仙沼市では、リアス式海岸のために津波により大きな被害をうけた低地と、津波の被害が少なかった高台がまだら状に存在した。気仙沼市立病院をはじめとして医療機関の津波による直接被害は少なかった。気仙沼市立病院に保管されていた災害診療記録のうち重複などを除外した解析可能なものは5784件、10471疾患であった。災害診療は3月20日(Day 9)から本格化し、3月26日(Day13)に最大254名の初診が行われた。外部からの支援の増加によると思われるゴールデンウィークの診療数が一時期増加したが、全体として漸減した。年齢構成は、2010年の国勢調査に基づく背景人口と似ているが、女性50.7%、男性37.8%、性別無記載11.5%で女性が多く、60歳よりも高齢になるほど背景人口よりも多い割合の避難者が診療を受けていた。医療ニーズは、南三陸と同様に、NCDが63.7%と最も多く、ついで感染症25.9%、メンタルヘルス問題6.1%、外傷4.2%、母子保健0.1%であった。疾患分類で最も多かったのは呼吸器感染症(初診病名の21%)であった。NCDでは筋骨格脊椎疾患(16.2%)、高血圧(15.0%)、花粉症(10.2%)、消化器疾患、皮膚疾患、代謝内分泌障害が多く高齢者の慢性疾患罹患率を反映していた。また、褥瘡も1.9%にあり、日常生活の活動性低下がさらに悪化した可能性がある。感染症では呼吸器感染症(81.3%)、胃腸炎・下痢(13/6%)の順に多かった。感染症は目立った大流行はなく、避難所での衛生状態の悪化を予防する対策の効果がうかがわれた。メンタルヘルス問題では睡眠障害が59.0%で精神疾患が32.7%、認知症・せん妄が8.3%であった。睡眠障害は女性240名、男性102名でいずれも30歳から増え始め背景人口と同じ60歳代に最も多かった。

(4) 石巻圏

石巻赤十字病院ならびに石巻圏合同診療支援チーム51チームの合意形成ができ、石巻赤十字病院に保管されていた災害診療記録約19473件(暫定)の匿名PDF化が終了したのは2020年5月であり、現在も処方や診断名などのデータ入力作業が進行中である。

(5) 地域間比較と考察

南三陸町ではDay 2から災害診療記録が20名分以上になったのに比較し、気仙沼市ではDay 9になるまでごくわずか(2名分)の災害診療記録しか残されていない。国土交通省によれば3月12日から15日にかけて内陸部と沿岸部をくしの歯状にむすぶ道路が啓開され、3月18日には沿岸部どうしを結ぶ国道45号線が啓開されている。日本DMATは少なくとも3月12日に気仙沼に入っており、行われた診療の記録が今回収集されたなかには含まれていなかった可能性がある。発災直後の混乱に加えて、災害診療記録を誰がどのように保管するかが課題である。

患者数/背景人口は南三陸町10464/17429(60.0%)、気仙沼市5784/73489(7.9%)、石巻圏19473人(暫定)/213780人(9.1%)であり、医療機関が残っていた気仙沼市と石巻圏に比較して、南三陸では公立志津川病院とすべての開業医が被害を受けて機能できなくなっていたため、搬送された患者以外は避難所での診療以外に頼るものがなかったことがわかる。

一方で、南三陸町、気仙沼市ともに、避難所で診療できるレベルの疾患の分布はNCDが63-68%を占め、ついで感染症が22-25%、メンタルヘルス問題が6%、外傷が4%、母子保健問題が0.1-0.2%と非常に似通った医療ニーズであった。南三陸ではすべての医療機関が被害を受けて機能できず、気仙沼では気仙沼市立病院が機能していたが、透析患者の移送や、より重症の医療ニーズに対応しなくてはならず、また、医療機関を受診することが避難者にとって容易ではなかったことなどから、病院外での診療は必ず必要になり、その医療ニーズは高齢化した背景人口(NCD)、季節(花粉症)、避難所の環境(感染症と睡眠障害)を反映したものになることが推察された。

(6) 結語：システムダイナミクスによる災害医療効率化への提言

わが国の災害医療体制は東日本大震災での経験を経て、低頻度広域大規模災害に対する備えをさらに充実させている (Egawa et al. 2020、 Egawa 2021)。すなわち、広範囲な被災地における保健医療のコーディネートの重要性(Egawa et al.2017)と、高齢化社会における保健・医療・福祉の融合(Egawa 2021)である。本研究により、東日本大震災では発災後数日以内の重症外傷や透析などの遠隔搬送を必要とする医療体制のほかに、多数の避難所における NCD、感染症、メンタルヘルス問題、がれきの片づけなどに伴う外傷、母子保健問題が医療ニーズとして時間的・量的に推移することが明らかとなった。そのピークは発災後 1-2 週間にあり、2-3 か月かけて漸減する。したがって、超急性期の捜索・救助活動、避難所での医療活動、そして長期の健康管理をそれぞれのチームが役割分担して支援し、復旧・復興した地域医療にシームレスにつなげることが重要である (江川 2019)。また、南三陸町(60%)と気仙沼・石巻圏(8-10%)における患者数割合の違いは地域の医療機関が業務を継続できたかどうかの原因と思われる、ハザードマップによる立地も含めて医療機関の業務継続計画(BCP)の重要性を示している (Sasaki et al. 2020)。5年後に再建された南三陸病院は高台に移転し、地域医療を担っている(Egawa et al. 2017)。今後予想される南海トラフ地震などの被災予想地では、医療機関の脆弱性を少なくして災害時に機能できるようにしておくこととともに、NCD に対する投薬、感染症に対する避難所環境、メンタルヘルス問題に対する投薬や心理行動療法、外傷に対する処置、母子保健問題に対する検診や出産の支援、介護や福祉サービスを必要とする被災者への支援の備えをしておくことが必要である。

< 引用文献 >

- Suda T, Murakami A, Nakamura Y, Sasaki H, Tsuji I, Sugawara Y, Hatsugai K, Nishizawa M, Egawa S, Medical Needs in Minamisanriku Town after the Great East Japan Earthquake, *Tohoku Journal of Experimental Medicine*, 248, 2019, 73-86
- Nakamura Y, Suda T, Murakami A, Sasaki H, Tsuji I, Sugawara Y, Nishizawa M, Hatsugai K, Egawa S, Sleep Disturbance of Evacuees in Minamisanriku Town after Great East Japan Earthquake: Risk Factors and Treatment, *Tohoku Journal of Experimental Medicine*, 251, 2020, 207-216
- Egawa S, Sasaki H, Suppasri A, Tomita H, Imamura F, Nagami F, Kanatani Y, Eto A, Koido Y, Kubo T, Kato H, Kim Y, Mashino S, Kayano R. Historical developments in Health EDRM policy and research: the case study of Japan. WHO Guidance on Research Methods for Health and Disaster Risk Management, Chapter 1.3, 2020
- Egawa S, Progress of Disaster Medicine during Ten Years after the 2011 Great East Japan Earthquake, *Tohoku Journal of Experimental Medicine*, 253, 2021, 159-170.
- 江川新一. 東日本大震災の診療記録統計とシステムダイナミクスに基づく災害医療効率化. *地域ケアリング* 21 巻、2019、50-57
- Egawa S, Suda T, Jones-Konneh TEC, Murakami A, Sasaki H. Nation-Wide Implementation of Disaster Medical Coordinators in Japan. *Tohoku Journal of Experimental Medicine*, 243, 2017,1-9
- Sasaki H, Maruya H, Abe Y, Fujita M, Furukawa H, Fuda M, Kamei T, Yaegashi N, Tominaga T, Egawa S, Scoping Review of Hospital Business Continuity Plans to Validate the Improvement after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami, Sasaki H, Maruya H, Abe Y, Fujita M, Furukawa H, Fuda M, Kamei T, Yaegashi N, Tominaga T, Egawa S. *Tohoku Journal of Experimental Medicine*. 251, 2020, 147-159
- Egawa S, Murakami A, Sasaki H. Healthy Community Resilient against Disaster, Santiago-Fandino V., Sato S. & Iuchi K. (Eds.), *The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and Restoration. Insights and Assessment after 5 Years.* Switzerland: Springer, 2017.139-152.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計77件（うち査読付論文 72件／うち国際共著 4件／うちオープンアクセス 43件）

1. 著者名 Sasaki Hiroyuki, Maruya Hiroaki, Abe Yoshiko, Fujita Motoo, Furukawa Hajime, Fuda Mikiko, Kamei Takashi, Yaegashi Nobuo, Tominaga Teiji, Egawa Shinichi	4. 巻 251
2. 論文標題 Scoping Review of Hospital Business Continuity Plans to Validate the Improvement after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 147 ~ 159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.251.147	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura Yayoi, Suda Tomomi, Murakami Aya, Sasaki Hiroyuki, Tsuji Ichiro, Sugawara Yumi, Nishizawa Masafumi, Hatsugai Kazuaki, Egawa Shinichi	4. 巻 251
2. 論文標題 Sleep Disturbance of Evacuees in Minamisanriku Town after Great East Japan Earthquake: Risk Factors and Treatment	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 207 ~ 216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.251.207	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Egawa S, Sasaki H, Suppasri A, Tomita H, Imamura F, Nagami F, Kanatani Y, Eto A, Koido Y, Kubo T, Kato H, Kim Y, Mashino S, Kayano R.	4. 巻 1
2. 論文標題 Chapter 1.3 Historical developments in Health EDRM policy and research: the case study of Japan.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 WHO Guidance on Research Methods for Health and Disaster Risk Management.	6. 最初と最後の頁 16 ~ 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Egawa Shinichi	4. 巻 253
2. 論文標題 Progress of Disaster Medicine during Ten Years after the 2011 Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 159 ~ 170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.253.159	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江川新一、佐々木宏之、丸谷浩明	4. 巻 69
2. 論文標題 病院におけるBCP・BCMの実際 東日本大震災の経験をふまえて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 共済医報	6. 最初と最後の頁 340～346
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hung, K.K.C., Mashino, S., Chan, E.Y.Y., MacDermot, M.K., Balsari, S., Ciottone, G.R., Della Corte, F., Dell'Aringa, M.F., Egawa, S., Evio, B.D., Hart, A., Hu, H., Ishii, T., Ragazzoni, L., Sasaki, H., Walline, J.H., Wong, C.S., Bhattarai, H.K., Dalal, S., Kayano, R., Abrahams, J., Graham, C.A.	4. 巻 18
2. 論文標題 Health Workforce Development in Health Emergency and Disaster Risk Management: The Need for Evidence-Based Recommendations	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 3382～3382
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph18073382	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sugawara Yumi, Tomata Yasutake, Sekiguchi Takuya, Yabe Yutaka, Hagiwara Yoshihiro, Tsuji Ichiro	4. 巻 8
2. 論文標題 Social trust predicts sleep disorder at 6 years after the Great East Japan earthquake: data from a prospective cohort study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Psychology	6. 最初と最後の頁 69～75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40359-020-00436-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Alifia Rahma Rizky, Rahma Fathiya, Hamida Ulfa, Koesoema Allya P., S.Irawan Yoke, Egawa Shinichi	4. 巻 8
2. 論文標題 Tsunami Fighters: Collaborative Multilingual Mobile Game for Earthquake and Tsunami Disaster Preparedness Education	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of 2020 IEEE 8th R10 Humanitarian Technology Conference (R10-HTC)	6. 最初と最後の頁 1～6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/R10-HTC49770.2020.9357038	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sasaki Daisuke, International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University 468-1 Aza-Aoba, Aramaki, Aoba-ku, Sendai, Miyagi 980-0845, Japan, Okumura Makoto, Ono Yuichi	4. 巻 15
2. 論文標題 Measurement of Disaster Damage Utilizing Disaster Statistics: A Case Study Analyzing the Data of Indonesia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Disaster Research	6. 最初と最後の頁 970 ~ 974
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20965/jdr.2020.p0970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakayama Masaharu, Takehana Kazuya, Kohro Takahide, Matoba Tetsuya, Tsutsui Hiroyuki, Nagai Ryoza, on behalf of the IHE Cardiology Team and SEAMAT Committee	4. 巻 2
2. 論文標題 Standard Export Data Format for Extension Storage of Standardized Structured Medical Information Exchange	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Circulation Reports	6. 最初と最後の頁 587 ~ 616
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1253/circrep.cr-20-0077	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakayama M, Ishii T	4. 巻 270
2. 論文標題 Incorporating Tacit Knowledge of Experts in the Assessment of Shelters Under Disaster.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies in Health Technology and Informatics	6. 最初と最後の頁 1321 - 1322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/SHTI200422	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木恵利奈, 根来健一, 諸井林太郎, 角田洋一, 中村直毅, 中山雅晴.	4. 巻 40
2. 論文標題 テンプレートとスマートフォンアプリを利用したデータ入力作業の効率化について.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医療情報学	6. 最初と最後の頁 145-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本恵宏, 竹村匡正, 竹上未紗, 興梠貴英, 中山雅晴, 的場哲哉, 小室一成, 斎藤能彦, 安田聡, 宍戸稔聡, 西村邦宏, 平松治彦, 上村幸司, 辻田賢一, 宇宿功市郎, 中村文明.	4. 巻 40
2. 論文標題 電子カルテ情報をセマンティクス (意味・内容) の標準化により分析可能なデータに変換するための研究.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医療情報学	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Park J, Yamashita T, Takada A, Hotta T, Nojiri C, Izukura R, Fujimura Y, Kimura M, Nakayama M, Ohe K, Orii T, Sueoka E, Suzuki T, Yokoi H, Kang D, Nakashima N.	4. 巻 16
2. 論文標題 Development of Continuous Validation Model on Standard Codes Mapping for Multi-Institutional Collaborative Data-Driven Medical Study.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 European Journal of Biomedical Informatics	6. 最初と最後の頁 10-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takayama Shin, Tomita Naoki, Arita Ryutaro, Ono Rie, Kikuchi Akiko, Ishii Tadashi	4. 巻 7
2. 論文標題 Kampo Medicine for Various Aging-Related Symptoms: A Review of Geriatric Syndrome	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Nutrition	6. 最初と最後の頁 86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnut.2020.00086	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hozawa A, Tanno K, Nakaya N, Nakamura T, Tsuchiya N, Hirata T, et al.	4. 巻 31
2. 論文標題 Study Profile of the Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 65 ~ 76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20190271	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Abe Michiaki, Akaishi Tetsuya, Ishii Tadashi	4. 巻 25
2. 論文標題 Late increases in dialysis initiation after a massive disaster	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Therapeutic Apheresis and Dialysis	6. 最初と最後の頁 125 ~ 126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1744-9987.13498	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Abe Michiaki, CKOALA study group, Akaishi Tetsuya, Shoji Mutsumi, Yamaguchi Takuhiro, Miki Takashi, Satoh Fumitoshi, Takayama Shin, Yamasaki Satomi, Kawaguchi Kazuhiko, Sato Hiroshi, Ishii Tadashi, Ito Sadayoshi	4. 巻 21
2. 論文標題 Reno-protective effects of oral alkalinizing agents in chronic kidney disease with aciduria: protocol for a randomized cohort study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Nephrology	6. 最初と最後の頁 144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12882-020-01807-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takayama Shin, Akaishi Tetsuya, Nozaki Hiroyuki, Suzuki Satoko, Arita Ryutarō, Saito Natsumi, Tanaka Junichi, Numata Takehiro, Kikuchi Akiko, Ohsawa Minoru, Abe Michiaki, Ishii Tadashi	4. 巻 21
2. 論文標題 Characteristics and course of patients treated with Kampo Medicine in the Department of General Medicine	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of General and Family Medicine	6. 最初と最後の頁 48 ~ 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jgf2.294	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Arita Ryutarō, Takayama Shin, Okamoto Hiroshi, Koseki Ken, Taniyama Yusuke, Kaneko Soichiro, Ono Rie, Suzuki Satoko, Kamei Takashi, Ishii Tadashi	4. 巻 99
2. 論文標題 Exploratory study of clinical effectiveness and safety of TJ-116 bukuryoingohangekobokuto for anxiety and postoperative water brash in esophageal cancer patients (TJ116E)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Medicine	6. 最初と最後の頁 e20317 ~ e20317
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MD.00000000000020317	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takayama Shin, Akaishi Tetsuya, Hanagama Masakazu, Itakura Yuko, Arita Ryutaro, Kikuchi Akiko, Ishii Tadashi	4. 巻 9
2. 論文標題 Herbal medicine-induced multiple pulmonary pseudotumors	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Family Medicine and Primary Care	6. 最初と最後の頁 3773 ~ 3773
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4103/jfmpc.jfmpc_420_20	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okuda Hiroshi, Okamoto Koji, Abe Michiaki, Ishizawa Kota, Makino Satoshi, Tanabe Osamu, Sugawara Junichi, Hozawa Atsushi, Tanno Kozo, Sasaki Makoto, Tamiya Gen, Yamamoto Masayuki, Ito Sadayoshi, Ishii Tadashi	4. 巻 24
2. 論文標題 Genome-wide association study identifies new loci for albuminuria in the Japanese population	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Clinical and Experimental Nephrology	6. 最初と最後の頁 1 ~ 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10157-020-01884-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akaishi Tetsuya, Takahashi Toshiyuki, Fujihara Kazuo, Misu Tatsuro, Nishiyama Shuhei, Takai Yoshiki, Fujimori Juichi, Abe Michiaki, Ishii Tadashi, Aoki Masashi, Nakashima Ichiro	4. 巻 45
2. 論文標題 Impact of intrathecal IgG synthesis on neurological disability in patients with multiple sclerosis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Multiple Sclerosis and Related Disorders	6. 最初と最後の頁 102382 ~ 102382
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.msard.2020.102382	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takayama Shin, Namiki Takao, Ito Takashi, Arita Ryutaro, Nakae Hajime, Kobayashi Seiichi, Yoshino Tetsuhiro, Ishigami Tomoaki, Tanaka Koichiro, Kainuma Mosaburo, Nochioka Kotaro, Takagi Airi, Mimura Masaru, Yamaguchi Takuhiro, Ishii Tadashi	4. 巻 21
2. 論文標題 A multi-center, randomized controlled trial by the Integrative Management in Japan for Epidemic Disease (IMJEDI study-RCT) on the use of Kampo medicine, kakkonto with shosaikotokakikyosekko, in mild-to-moderate COVID-19 patients for symptomatic relief and prevention of severe stage: a structured summary of a study protocol for a randomized controlled trial	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Trials	6. 最初と最後の頁 827-829
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13063-020-04746-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akaishi Tetsuya, Takahashi Toshiyuki, Fujihara Kazuo, Misu Tatsuro, Fujimori Juichi, Takai Yoshiki, Nishiyama Shuhei, Abe Michiaki, Ishii Tadashi, Aoki Masashi, Nakashima Ichiro	4. 巻 12
2. 論文標題 Early Treatment Initiation With Oral Prednisolone for Relapse Prevention Alleviates Depression and Fatigue in Aquaporin-4 Positive Neuromyelitis optica Spectrum Disorder	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Neurology	6. 最初と最後の頁 608149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fneur.2021.608149	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Namiki Takao, Takayama Shin, Arita Ryutaro, Ishii Tadashi, Kainuma Mosaburo, Makino Toshiaki, Mimura Masaru, Yoshino Tetsuhiro, Nogami Tatsuya, Arai Makoto, Sato Juichi, Tanaka Koichiro, Nakae Hajime, Igari Hidetoshi, Ozawa Yoshihito, Shiko Yuki, Kawasaki Yohei, Nezu Masahiko, Ito Takashi	4. 巻 22
2. 論文標題 A structured summary of a study protocol for a multi-center, randomized controlled trial (RCT) of COVID-19 prevention with Kampo medicines (Integrative Management in Japan for Epidemic Disease by prophylactic study: IMJEDI P1 study)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Trials	6. 最初と最後の頁 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13063-020-04939-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishii Tadashi, Kushimoto Shigeki, Katori Yukio, Kure Shigeo, Igarashi Kaoru, Fujita Motoo, Takayama Shin, Abe Michiaki, Tanaka Junichi, Kikuchi Akiko, Abe Yoshiko, Imai Hiroyuki, Inaba Yohei, Iwamatsu-Kobayashi Yoko, Nishioka Takashi, Onodera Ko, Akaishi Tetsuya	4. 巻 253
2. 論文標題 Predictors of SARS-CoV-2 Positivity Based on RT-PCR Swab Tests at a Drive-Through Outpatient Clinic for COVID-19 Screening in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 101 ~ 108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.253.101	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akaishi Tetsuya, Misu Tatsuro, Takahashi Toshiyuki, Takai Yoshiki, Nishiyama Shuhei, Fujimori Juichi, Ishii Tadashi, Aoki Masashi, Fujihara Kazuo, Nakashima Ichiro	4. 巻 351
2. 論文標題 Progression pattern of neurological disability with respect to clinical attacks in anti-MOG antibody-associated disorders	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Neuroimmunology	6. 最初と最後の頁 577467 ~ 577467
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jneuroim.2020.577467	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki Hiroyuki, Maruya Hiroaki, Abe Yoshiko, Fujita Motoo, Furukawa Hajime, Fuda Mikiko, Kamei Takashi, Yaegashi Nobuo, Tominaga Teiji, Egawa Shinichi	4. 巻 251
2. 論文標題 Scoping Review of Hospital Business Continuity Plans to Validate the Improvement after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 147 ~ 159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.251.147	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okuyama Junko, Sasaki Hiroyuki, Seto Shuji, Fukuda Yu, Iwasaki Toshiki, Matsuzawa Toru, Ito Kiyoshi, Izumi Takako, Takakura Hiroki, Imamura Fumihiko, Ishi Tadashi	4. 巻 15
2. 論文標題 WBF-2019 Core Research Cluster of Disaster Science Planning Session as Disaster Preparedness: Participation in a Training Program for Conductor-Type Disaster Healthcare Personnel	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Disaster Research	6. 最初と最後の頁 900 ~ 912
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20965/jdr.2020.p0900	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坪内 暁子, 内藤 俊夫, 佐藤 健, 佐々木 宏之, 今村 文彦, 仲田 悦教, 范 家坤, 奈良 武司	4. 巻 23
2. 論文標題 福祉の現場から 国際都市新宿区の成城学校避難所地域住民にむけた新型コロナウイルスCOVID-19予防策(No.3)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 NAKAZATO Yuto, MIZUTANI Daijiro, OKUMURA Makoto	4. 巻 76
2. 論文標題 A SPATIO-TEMPORAL REPAIR SYNCHRONIZATION POLICY FOR A SMALL-SCALE ROAD PAVEMENT	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. D3 (Infrastructure Planning and Management)	6. 最初と最後の頁 I_233 ~ I_240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2208/jscejipm.76.5_I_233	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西脇千瀬・奥村誠	4. 巻 76
2. 論文標題 宮城県におけるチリ地震津波後の恒久対策の策定背景	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 土木学会論文集 D3	6. 最初と最後の頁 1-523 ~ 1-529
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suda Tomomi, Murakami Aya, Nakamura Yayoi, Sasaki Hiroyuki, Tsuji Ichiro, Sugawara Yumi, Hatsugai Kazuaki, Nishizawa Masafumi, Egawa Shinichi	4. 巻 248
2. 論文標題 Medical Needs in Minamisanriku Town after the Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 73 ~ 86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.248.73	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江川新一	4. 巻 21
2. 論文標題 東日本大震災の診療記録統計とシステムダイナミクスに基づく災害医療効率化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 50-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yabe Yutaka, Hagiwara Yoshihiro, Sekiguchi Takuya, Sugawara Yumi, Tsuchiya Masahiro, Koide Masashi, Itaya Nobuyuki, Yoshida Shinichiro, Sogi Yasuhito, Yano Toshihisa, Tsuji Ichiro, Itoi Eiji	4. 巻 13
2. 論文標題 Musculoskeletal Pain is Associated With New-Onset Psychological Distress in Survivors of the Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Disaster Medicine and Public Health Preparedness	6. 最初と最後の頁 295 ~ 300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/dmp.2018.57	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sekiguchi Takuya, Hagiwara Yoshihiro, Sugawara Yumi, Tomata Yasutake, Tanji Fumiya, Yabe Yutaka, Itoi Eiji, Tsuji Ichiro	4. 巻 9
2. 論文標題 Moving from prefabricated temporary housing to public reconstruction housing and social isolation after the Great East Japan Earthquake: a longitudinal study using propensity score matching	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e026354 ~ e026354
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2018-026354	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yabe Yutaka, Hagiwara Yoshihiro, Sekiguchi Takuya, Sugawara Yumi, Tsuchiya Masahiro, Itaya Nobuyuki, Yoshida Shinichirou, Sogi Yasuhito, Yano Toshihisa, Onoki Takahiro, Tsuji Ichiro, Itoi Eiji	4. 巻 19
2. 論文標題 Musculoskeletal pain and new-onset poor physical function in elderly survivors of a natural disaster: a longitudinal study after the great East Japan earthquake	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Geriatrics	6. 最初と最後の頁 274
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12877-019-1283-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kuniyoshi Yasutaka, Kikuya Masahiro, Miyashita Masako, Yamanaka Chizuru, Ishikuro Mami, Obara Taku, Metoki Hirohito, Nakaya Naoki, Nagami Fuji, Tomita Hiroaki, Hozawa Atsushi, Tsuji Ichiro, Kure Shigeo, Yaegashi Nobuo, Kuriyama Shinichi	4. 巻 13
2. 論文標題 Prefabricated Temporary Housing and Eczema or Respiratory Symptoms in Schoolchildren after the Great East Japan Earthquake: The ToMMo Child Health Study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Disaster Medicine and Public Health Preparedness	6. 最初と最後の頁 905 ~ 911
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/dmp.2019.8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Seto Moe, Nemoto Harumi, Kobayashi Natsuko, Kikuchi Saya, Honda Nami, Kim Yoshiharu, Kelman Ilan, Tomita Hiroaki	4. 巻 19
2. 論文標題 Post-disaster mental health and psychosocial support in the areas affected by the Great East Japan Earthquake: a qualitative study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry	6. 最初と最後の頁 261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12888-019-2243-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅原由美, 遠又靖丈, 辻 一郎	4. 巻 66
2. 論文標題 東日本大震災の被災者における転居の範囲と健康状態との関連.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 厚生指標	6. 最初と最後の頁 13~18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須ヶ間 淳、奥村 誠	4. 巻 54
2. 論文標題 多機能公共施設の更新戦略最適化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 758~765
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.54.758	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SUGAMA Atsushi, OKUMURA Makoto	4. 巻 75
2. 論文標題 REDUCING POLICY OF PUBLIC FACILITIES AND THE ACCESSIBILITY TO FLOOD EVACUATION SITES	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. D3 (Infrastructure Planning and Management)	6. 最初と最後の頁 I_223~I_232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2208/jscejipm.75.I_223	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 夏目 恵子	4. 巻 68
2. 論文標題 シミュレーション技術を用いた大規模震災図上演習の取り組みと 地域における防災対策の向上	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 保健医療科学	6. 最初と最後の頁 168~169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20683/jniph.68.2_168	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江川新一、越村俊一	4. 巻 15
2. 論文標題 津波の広域被害把握技術の進化と災害医療支援システムの革新にむけて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BIO Clinica	6. 最初と最後の頁 81～90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須ヶ間淳、奥村誠	4. 巻 59
2. 論文標題 公共施設更新における平常時の利便性と洪水避難条件のトレードオフ構造,	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 土木計画学研究・講演集	6. 最初と最後の頁 79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi SUGAMA, Makoto OKUMURA	4. 巻 2019
2. 論文標題 Multi-functional Optimization Model for Sustainable Facilities Management Coping with Decreasing Population	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of International Conference of Asia-Pacific Planning Societies (ICAPPS2019), CD-ROM	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村誠、須ヶ間淳	4. 巻 2019
2. 論文標題 災害対応施設の更新スケジューリング,	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 スケジューリング・シンポジウム2019講演論文集	6. 最初と最後の頁 37-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 元井初音、奥村誠、水谷大二郎	4. 巻 60
2. 論文標題 年齢別人口移動NMFモデルのベイズ推定,	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 土木計画学研究・講演集	6. 最初と最後の頁 26-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 銭谷直樹・山口裕通・奥村誠・中山晶一郎	4. 巻 60
2. 論文標題 携帯電話位置情報を用いた災害情報に対する人の移動行動分析,	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 土木計画学研究・講演集	6. 最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jones-Konneh Tracey Elizabeth Claire, Suda Tomomi, Sasaki Hiroyuki, Egawa Shinichi	4. 巻 245
2. 論文標題 Agent-Based Modeling and Simulation of Nosocomial Infection among Healthcare Workers during Ebola Virus Disease Outbreak in Sierra Leone	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 231 ~ 238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.245.231	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Egawa S, Jibiki Y, Sasaki D, Ono Y, Nakamura Y, Suda T, Sasaki H.	4. 巻 13
2. 論文標題 The Correlation Between Life Expectancy and Disaster Risk	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Disaster Research	6. 最初と最後の頁 1049 ~ 1061
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20965/jdr.2018.p1049	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tanji Fumiya, Tomata Yasutake, Sekiguchi Takuya, Tsuji Ichiro	4. 巻 8
2. 論文標題 Period of residence in prefabricated temporary housing and psychological distress after the Great East Japan Earthquake: a longitudinal study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e018211 ~ e018211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2017-018211	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sekiguchi Takuya, Hagiwara Yoshihiro, Sugawara Yumi, Tomata Yasutake, Tanji Fumiya, Watanabe Takashi, Yabe Yutaka, Koide Masashi, Itaya Nobuyuki, Itoi Eiji, Tsuji Ichiro	4. 巻 23
2. 論文標題 Influence of subjective economic hardship on new onset of neck pain (so-called: katakori) in the chronic phase of the Great East Japan Earthquake: A prospective cohort study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Orthopaedic Science	6. 最初と最後の頁 758 ~ 764
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jos.2018.04.011	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Eto A, Kanatani Y	4. 巻 5
2. 論文標題 Countering Bioterrorism: Current Status and Challenges - A Focus on Pharmaceutical Products and Vaccines -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ADC Letter	6. 最初と最後の頁 50-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金谷泰宏, 千島佳也子	4. 巻 48
2. 論文標題 災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)教育研修について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 公衆衛生情報	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金谷泰宏, 江藤亜紀子	4. 巻 10
2. 論文標題 人為的災害で必要とされる分析技術	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ぶんせき	6. 最初と最後の頁 416-419
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金谷泰宏	4. 巻 72
2. 論文標題 国際的なパンデミック対策と我が国の健康危機管理	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立病院学会誌 医療	6. 最初と最後の頁 450-453
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金谷泰宏, 奥田博子	4. 巻 74
2. 論文標題 自然災害に関する制度上の変化 受援自治体の保健師に求められるもの.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 1006-1011
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金谷泰宏, 奥田博子	4. 巻 61
2. 論文標題 災害時の公衆衛生対策の重要性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 保健の科学	6. 最初と最後の頁 153-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金谷泰宏, 市川学	4. 巻 522
2. 論文標題 超スマート社会で医療ニーズに応え続けるためには何が必要か-IoT, AIを活用した災害医療の研究・開発を主に.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新医療	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rubel Das, Makoto Okumura	4. 巻 12
2. 論文標題 Analysis of the Effect of Different Demand Trends in Deterministic Relief Inventory Model	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies	6. 最初と最後の頁 757-780
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11175/easts.12.757	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Okumura Makoto, Ito Wataru	4. 巻 13
2. 論文標題 A Statistical Analysis of Japanese Inter-Prefectural Migration After Disasters	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Disaster Research	6. 最初と最後の頁 1072 ~ 1081
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20965/jdr.2018.p1072	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 TAKEI Hiroki, OKUMURA Makoto	4. 巻 74
2. 論文標題 FUNDAMENTAL ANALYSIS METHOD CONFIGURING THE PERMISSIBLE VEHICLE UTILIZATION RATE IN TSUNAMI EVACUATION	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. D3 (Infrastructure Planning and Management)	6. 最初と最後の頁 I_181 ~ I_189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2208/jscejipm.74.I_181	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹居 広樹、奥村 誠、爪林 康太	4. 巻 5
2. 論文標題 津波避難におけるコントラフロー適用区間に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 交通工学論文集	6. 最初と最後の頁 A_56 ~ A_63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14954/jste.5.2_A_56	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murakami Aya, Sasaki Hiroyuki, Pascapurnama Dysshelly Nurkartika, Egawa Shinichi	4. 巻 -
2. 論文標題 Noncommunicable Diseases After the Great East Japan Earthquake: Systematic Review, 2011-2016	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Disaster Medicine and Public Health Preparedness	6. 最初と最後の頁 1 ~ 12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/dmp.2017.63	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Egawa S, Suda T, Jones-Konneh TEC, Murakami A, Sasaki H.	4. 巻 243
2. 論文標題 Nation-Wide Implementation of Disaster Medical Coordinators in Japan.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 1 ~ 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.243.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jones-Konneh Tracey Elizabeth Claire, Murakami Aya, Sasaki Hiroyuki, Egawa Shinichi	4. 巻 243
2. 論文標題 Intensive Education of Health Care Workers Improves the Outcome of Ebola Virus Disease: Lessons Learned from the 2014 Outbreak in Sierra Leone	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 101 ~ 105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.243.101	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Pascapurnama Dyshelly Nurkartika, Murakami Aya, Chagan-Yasutan Haorile, Hattori Toshio, Sasaki Hiroyuki, Egawa Shinichi	4. 巻 -
2. 論文標題 Integrated health education in disaster risk reduction: Lesson learned from disease outbreak following natural disasters in Indonesia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Disaster Risk Reduction	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijdr.2017.07.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤井健次郎、崎山晶子、阿部佳代子、泉水信一郎、林健太郎、江川新一.	4. 巻 22
2. 論文標題 東日本大震災における石巻市遊学館福祉避難所の活動報告.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Disaster Medicine	6. 最初と最後の頁 252 ~ 258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanji Fumiya, Sugawara Yumi, Tomata Yasutake, Watanabe Takashi, Sugiyama Kemmyo, Kaiho Yu, Tomita Hiroaki, Tsuji Ichiro	4. 巻 221
2. 論文標題 Psychological distress and the incident risk of functional disability in elderly survivors after the Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 145 ~ 150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2017.06.030	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murakami Aya, Sugawara Yumi, Tomata Yasutake, Sugiyama Kemmyo, Kaiho Yu, Tanji Fumiya, Tsuji Ichiro	4. 巻 189
2. 論文標題 Association between housing type and -GTP increase after the Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Social Science & Medicine	6. 最初と最後の頁 76 ~ 85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2017.07.020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 関口拓矢, 菅原由美, 渡邊 崇, 遠又靖丈, 丹治史也, 萩原嘉廣, 矢部 裕, 井樋栄二, 辻 一郎.	4. 巻 64
2. 論文標題 東日本大震災被災者における震災後4年間の自覚症状有訴者率変化と関連因子の検討.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 厚生学	6. 最初と最後の頁 15~21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hagiwara Yoshihiro, Sekiguchi Takuya, Yabe Yutaka, Sugawara Yumi, Watanabe Takashi, Kanazawa Kenji, Koide Masashi, Itaya Nobuyuki, Tsuchiya Masahiro, Tsuji Ichiro, Itoi Eiji	4. 巻 22
2. 論文標題 Living status, economic hardship and sleep disturbance were associated with subjective shoulder pain in survivors of the Great East Japan Earthquake: A cross sectional study	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Orthopedic Science	6. 最初と最後の頁 442~446
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jos.2016.12.027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hagiwara Yoshihiro, Sekiguchi Takuya, Sugawara Yumi, Yabe Yutaka, Koide Masashi, Itaya Nobuyuki, Yoshida Shinichiro, Sogi Yasuhito, Tsuchiya Masahiro, Tsuji Ichiro, Itoi Eiji	4. 巻 242
2. 論文標題 Association Between Sleep Disturbance and New-onset Subjective Shoulder Pain in Survivors of the Great East Japan Earthquake: A Prospective Cohort Study in Miyagi Prefecture	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 193~201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.242.193	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yabe Yutaka, Hagiwara Yoshihiro, Sekiguchi Takuya, Sugawara Yumi, Tsuchiya Masahiro, Koide Masashi, Itaya Nobuyuki, Yoshida Shinichiro, Sogi Yasuhito, Yano Toshihisa, Tsuji Ichiro, Itoi Eiji	4. 巻 244
2. 論文標題 Higher Incidence of Sleep Disturbance among Survivors with Musculoskeletal Pain after the Great East Japan Earthquake: A Prospective Study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 25~32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.244.25	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢部 裕, 萩原嘉廣, 関口拓矢, 菅原由美, 渡邊 崇, 土谷昌広, 辻 一郎, 井樋栄二	4. 巻 9
2. 論文標題 東日本大震災被災者における居住環境と主観的経済状況が新規腰痛発生に与える影響.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Musculoskeletal Pain Research	6. 最初と最後の頁 89-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計101件 (うち招待講演 39件 / うち国際学会 29件)

1. 発表者名 Egawa Shinichi
2. 発表標題 Healthy Society is Resilient against Disaster
3. 学会等名 Berlin Science Week (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 R. R. Alifia, F. Rahma, U. Hamida, A. P. Koesoema, Y. S. Irawan and S. Egawa
2. 発表標題 Tsunami Fighters: Collaborative Multilingual Mobile Game for Earthquake and Tsunami Disaster Preparedness Education
3. 学会等名 2020 IEEE 8th R10 Humanitarian Technology Conference (R10-HTC) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菅原由美, 曾根稔雅, 辻 一郎
2. 発表標題 東日本大震災後の恒久住宅の種類が睡眠状況に及ぼす影響
3. 学会等名 第31回日本疫学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅原由美, 曾根稔雅, 辻 一郎
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染拡大による睡眠状況への影響 - 被災者健康調査の結果から -
3. 学会等名 第91回日本衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中里悠人・水谷大二郎・奥村誠
2. 発表標題 時間依存型劣化過程を有する道路舗装における補修の同期化と劣化状態の空間相関
3. 学会等名 第62回土木計画学研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福山俊一・水谷大二郎・奥村誠
2. 発表標題 予算平準化を考慮した社会基盤施設の維持管理施策
3. 学会等名 第62回土木計画学研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥村誠・水谷大二郎
2. 発表標題 NMF による自然災害被害統計の構造分析
3. 学会等名 第62回土木計画学研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西脇千瀬・奥村誠
2. 発表標題 宮城県におけるチリ地震津波後の恒久対策の策定背景
3. 学会等名 第61回土木計画学研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中里悠人・水谷大二郎・奥村誠
2. 発表標題 近接舗装区間の補修同期化の影響分析
3. 学会等名 第61回土木計画学研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金谷 泰宏
2. 発表標題 我が国における感染症対策「新型コロナウイルス感染症への対応」
3. 学会等名 日本危機管理防災学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masaharu Nakayama, Ryusuke Inoue, Satoshi Miyata, Hiroaki Shimizu
2. 発表標題 Prospective Randomized Trial of Telemedicine-based Collaborative Care Using A Prefectural Medical Information Network System.
3. 学会等名 AMIA 2020 VIRTUAL ANNUAL SYMPOSIUM (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masaharu Nakayama, Ryusuke Inoue.
2. 発表標題 Electronic phenotyping of heart failure from a national clinical information database.
3. 学会等名 ESC Congress 2020 The Digital Experience (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中山雅晴
2. 発表標題 医療安全を担保するためのPatient Summary考
3. 学会等名 第40回医療情報学連合大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中山雅晴
2. 発表標題 AI時代の循環器ビックデータ
3. 学会等名 不整脈治療フロンティア2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中山 雅晴
2. 発表標題 Secondary Usage of Cardiovascular Clinical Data through Incorporation of a Standardized Data Format
3. 学会等名 第84回日本循環器学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中山 雅晴
2. 発表標題 不整脈疾患を対象としたフェノタイピングの検討 Investigation on Retrieval Precision of Arrhythmia from a Hospital Information System
3. 学会等名 第24回日本医療情報学会春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sono Sawada, Yoshiaki Fujmura, Michio Kimura, Koichiro Murata, Naoki Nakashima, Masaharu Nakayama, Kazuhiko Ohe, Takao Orii, Eizaburo Sueoka, Takahiro Suzuki, Hideto Yokoi, Chieko Ishiguro, Kaori Yamada, Maori Itoh and Yoshiaki Uyama.
2. 発表標題 Safety-signal Detection For Liver Dysfunction Associated With A Drug : Pilot Studies Using Mid-net .
3. 学会等名 第30回 日本疫学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中山 雅晴
2. 発表標題 臨床研究・治験 臨床研究中核病院での医療情報二次利用の取組み データの収集及びバリデーションについて (SWG1)
3. 学会等名 令和元(2019)年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 宮城県災害医療コーディネーターとしての令和元年台風19号災害対応
3. 学会等名 第11回プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 東日本大震災対応経験から見えてきた課題
3. 学会等名 第26回日本災害医学会総会・学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅野武，只野恭教，石井正
2. 発表標題 災害時における抗凝固薬の適切な使用への提案 災害時潰瘍出血のリスク因子解析から
3. 学会等名 第26回日本災害医学会総会・学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲葉洋平，阿部喜子，西岡貴志，藤田基生，石井正
2. 発表標題 ドライブスルー型新型コロナウイルス感染症検査外来の運用1 検査診療体制について
3. 学会等名 第26回日本災害医学会総会・学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿部喜子，稲葉洋平，西岡貴志，藤田基生，石井正
2. 発表標題 ドライブスルー型新型コロナウイルス感染症検査外来の運用2 ロジスティクスについて
3. 学会等名 第26回日本災害医学会総会・学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 ドライブスルー型新型コロナウイルス感染症 reverse transcriptase polymerase chain reaction (RT-PCR) 検査外来の設置
3. 学会等名 第26回日本災害医学会総会・学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 江川新一
2. 発表標題 東日本大震災から始まる災害レジリエンス学際研究
3. 学会等名 第26回日本災害医学会総会・学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木宏之
2. 発表標題 特別じゃない、災害医療。震度7発生。外科の先生、どう行動しますか？
3. 学会等名 第120回日本外科学会総会・学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木宏之
2. 発表標題 東日本大震災を経験した東北大学病院のBCP策定ステップ
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木宏之
2. 発表標題 災害派遣医療チームの立場からみた避難所の課題
3. 学会等名 災害対応空間の設営・運営に関する研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木宏之、江川新一
2. 発表標題 多職種だからこそできる東北大学病院BCP・BCM
3. 学会等名 第26回日本災害医学会総会・学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinichi Egawa, Yayoi Nakamura, Tomomi Suda, Hiroyuki Sasaki
2. 発表標題 Life expectancy negatively correlates with disaster risk index.
3. 学会等名 World Association for Disaster and Emergency Medicine 2019 Brisbane (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村 やよい、須田 智美、佐々木 宏之、江川 新一
2. 発表標題 東日本大震災後の南三陸町における睡眠障害
3. 学会等名 第25回日本災害医学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinichi Egawa
2. 発表標題 GHAE, GEJE and research
3. 学会等名 The 1st Core Group Meeting of WHO Thematic Platform for Health Emergency and Disaster Risk Management (Health-EDRM) Research Network (TPRN) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江川新一
2. 発表標題 台風19号 災害医療対応
3. 学会等名 2019年台風第19号災害に関する東北学術合同調査団 調査結果速報会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yayoi Nakamura, Tomomi Suda, Aya Murakami, Hiroyuki Sasaki, Ichiro Tsuji, Yumi Sugawara, Masafumi Nishizawa, Kazuaki Hatsugai, Shinichi Egawa
2. 発表標題 Sleep disturbance among people in Minamisanriku Town after the Great East Japan Earthquake
3. 学会等名 World Bosai Forum 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tadashi Ishii, Masaharu Nakayama, Kazuma Morino, Tomohiko Mase, Hiroyuki Fujiwara, Jun Yamadera
2. 発表標題 A Verification Test for an Assessment System : Rapid Assessment System of Evacuation Center Condition-Gonryo and Miyagi (RASECC-GM) that Utilizes Mobile Devices
3. 学会等名 WADEM Congress on Disaster and Emergency Medicine (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中淳一、有田龍太郎、奥田拓史、齊藤奈津美、阿部喜子、金子聡一郎、高山真、阿部倫明、石井正
2. 発表標題 東日本大震災後の被災地体験実習のキャリアに与える長期的な影響に関するアンケート調査
3. 学会等名 第51回日本医学教育学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 「コンダクター型災害保健医療人材の養成」プログラム【医療チームによる災害支援領域】
3. 学会等名 第57回日本医療・病院管理学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 シンポジウム「災害医療と法」：災害医療の現場から見えてきた災害時の傷病者トリアージの法律上の課題
3. 学会等名 日本医事法学会第49回研究大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 東北大学・福島県立医科大学の災害保健医療教育への取り組み：「コンダクター型災害保健医療人材の養成」プログラムの構築
3. 学会等名 第25回日本災害医学会総会・学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 須田智美、中村やよい、佐々木宏之、江川新一
2. 発表標題 東日本大震災後の南三陸町における病院外の医療ニーズ解析最終報告
3. 学会等名 第24回日本災害医学会 学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinichi Egawa
2. 発表標題 Research and development for healthy community resilient against disaster.
3. 学会等名 Joint Symposium on eHealth and Technologies for a Resilient Community against Disasters (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinichi Egawa, Tomomi Suda, Tracey Elizabeth Claire Jones-Konneh, Hiroyuki Sasaki
2. 発表標題 National Disaster Medical System and its coordination in Japan
3. 学会等名 15th Annual Meeting, Asia Oceania Geosciences Society 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinichi Egawa
2. 発表標題 Resilience A Scientific Perspective
3. 学会等名 4th International Symposium on Development of CBRN Protection Capabilities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinichi Egawa, Tomomi Suda, Yayoi Nakamura, Aya Murakami, Dysshelly Nurkartika Pascapurnama, AlIya Paramita Koesoema, Yoke Saadia Irawan, Hiroyuki Sasaki
2. 発表標題 Medical needs after Great East Japan Earthquake and its implication for future eHealth
3. 学会等名 The 11th Aceh International Workshop and EXPO on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinichi Egawa
2. 発表標題 Disaster Risk Management in Health: The role of Global Center for Disaster Statistics
3. 学会等名 The 14th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江川新一
2. 発表標題 東日本大震災時の南三陸町における 避難所・救護所診療の医療ニーズ解析疫学研究
3. 学会等名 第25回ヘルスリサーチフォーラム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江川新一
2. 発表標題 仙台防災枠組と災害リスクの考え方
3. 学会等名 第55回日本腹部救急医学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江川新一、須田智美、中村やよい、佐々木宏之
2. 発表標題 シミュレーションソフトウェアの災害医学への応用
3. 学会等名 第24回日本災害医学会 総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山雅晴
2. 発表標題 地域医療連携システムの構築・活用・展望 ～みやぎ医療福祉情報ネットワーク（MMWIN）の経験から
3. 学会等名 医療と介護の総合展
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山雅晴
2. 発表標題 心不全パンデミック時代のIoTと地域医療連携
3. 学会等名 第22回日本心不全学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山雅晴
2. 発表標題 みやぎ医療福祉情報ネットワーク（MMWIN）における進捗と展望
3. 学会等名 第38回医療情報学連合大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kanatani Y
2. 発表標題 How to protect lives from disasters
3. 学会等名 The 14th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine in Kobe (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Miyazaki M, Okuda H, Haruyama S, Kanatani Y, Yoshitomi N, Iguchi S.
2. 発表標題 Developing a disaster response competency model for public health nurse leaders: Based on experiences of natural disasters in Japan.
3. 学会等名 The 3rd Asian Congress in Nursing Education (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Miyazaki M, Okuda H, Haruyama S, Kanatani Y, Yoshitomi N, Iguchi S.
2. 発表標題 Development of a training program using reflection for disaster management capacity building of public health nurse leaders:
3. 学会等名 American Public Health Association Annual Meeting and Exposition (APHA's 2018 Annual Meeting & Expo) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江藤亜紀子, 金谷泰宏
2. 発表標題 仙台防災枠組における目標達成のために必要とされる災害研究と比較した研究動向の分析
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥村 誠, 竹居 広樹
2. 発表標題 自動車をを用いた津波避難の最適化モデル
3. 学会等名 スケジューリング・シンポジウム2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makoto Okumura, Hiroki Takei
2. 発表標題 Can we expect altruism of car drivers in tsunami evacuation? Analyzed by a tri-modal optimal evacuation model
3. 学会等名 9th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management (IDRiM 2018)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥村 誠
2. 発表標題 平成28年北海道豪雨による道路被害からの教訓
3. 学会等名 平成30年度東北地域災害科学研究集会および講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高山真, 沼田健裕, 菊地章子, 齊藤奈津美, 有田龍太郎, 田中淳一, 黒田仁, 阿部倫明, 石井正
2. 発表標題 漢方は災害時に役立つか？
3. 学会等名 第115回日本内科学会総会・講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 東日本大震災時における災害対応経験とその後の取り組み
3. 学会等名 第140回名古屋大学防災アカデミー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井正, 金谷泰宏, 齋藤充, 生出泉太郎, 丸山嘉一
2. 発表標題 災害時における避難所情報収集のあり方
3. 学会等名 日本プライマリ・ケア連合学会第8回東北ブロック支部学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 東日本大震災時における災害対応の実際
3. 学会等名 第43回港北医学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tadashi Ishii, Kazuma Morino
2. 発表標題 Medical response to the Great East Japan Earthquake in the Ishinomaki medical zone and our efforts to prepare for future disasters
3. 学会等名 The 14th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuji Maeda, Yoshihiro Ando, Yoshiro Nishimura, Ikuko Yoshitugu, Shinichi Nakayama, Tadashi Ishii, Minoru Konishi, Takashi Okunaga, Makiko Kai, Asuka Toda, Kazuhiro Yamamoto
2. 発表標題 Investigation of activity guidelines of disaster hospitals through disaster activities in the Ishinomaki medical zone during the Great East Japan Earthquake
3. 学会等名 The 14th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井正, 古屋好美, 森野一真
2. 発表標題 災害時における避難所アセスメント体制の現状とその展望
3. 学会等名 第24回日本災害医学会総会学術集会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinichi Egawa, Makoto Okumura, Aya Murakami, Tracey Elizabeth Clair Jones, Hiroyuki Sasaki
2. 発表標題 System Dynamic Simulation for Medical Needs in the Great East Japan Earthquake
3. 学会等名 World Association for Disaster and Emergency Medicine 2017 Toronto (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinichi Egawa
2. 発表標題 Medical Needs in Disaster and the Role of Health Cluster
3. 学会等名 Faculty of Public Health, University of Indonesia Science Festival (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinichi Egawa
2. 発表標題 Global health security in Pacific Basin
3. 学会等名 2nd Annual Meeting of Society of Disaster Medicine and Public Health (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinichi Egawa, Tomomi Suda, Tracey Claire Jones-Konneh, Erick Mas, Makoto Okumura, Hiroyuki Sasaki
2. 発表標題 System Dynamics Simulation of the Medical Needs in a Town after Great East Japan Earthquake
3. 学会等名 2nd Annual Meeting of Society of Disaster Medicine and Public Health (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinichi Egawa
2. 発表標題 Sendai Framework for Disaster Risk Reduction, Priority Action 3
3. 学会等名 Global Forum on Science and Technology for Disaster Resilience (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 須田智美、村上綾、Tracey Elizabeth Claire Jones-Konneh、佐々木宏之、辻一郎、菅原由美、櫻田正壽、西澤匡史、江川新一
2. 発表標題 東日本大震災後の南三陸町における病院外の医療ニーズ解析
3. 学会等名 第23回日本集団災害医学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinichi Egawa
2. 発表標題 Fukushima Large Scale Evacuation
3. 学会等名 Care in Civil Protection, 1st AKNZ congress (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中山雅晴
2. 発表標題 災害時避難所対策に関する優先度意識調査
3. 学会等名 第23回日本集団災害医学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sugawara Y, Tomata Y, Sekiguchi T, Tsuji I.
2. 発表標題 Relationship between housing type after the Great East Japan Earthquake and functional disability.
3. 学会等名 The 21st International Epidemiological Association (IEA), World Congress of Epidemiology (WCE2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sekiguchi T, Sugawara Y, Hagiwara Y, Tomata Y, Watanabe T, Tanji F, Itoi E, Tsuji I.
2. 発表標題 Influence of subjective economic status on the new-onset of neck pain (Katakori) in the chronic phase of the Great East Japan Earthquake: Longitudinal study in Miyagi prefecture.
3. 学会等名 The 21st International Epidemiological Association (IEA), World Congress of Epidemiology (WCE2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nakaya N, Narita A, Tsuchiya N, Nakamura T, Tsuji I, Hozawa A, Tomita H.
2. 発表標題 Partners' ongoing treatment for chronic disease and the risk of psychological distress after the Great East Japan Earthquake.
3. 学会等名 The 21st International Epidemiological Association (IEA), World Congress of Epidemiology (WCE2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土屋菜歩, 清元秀泰, 中谷直樹, 中村智洋, 成田 暁, 小暮真奈, 菊谷昌浩, 丹野高三, 菅原準一, 栗山進一, 辻 一郎, 吳 繁夫, 竇澤 篤.
2. 発表標題 東日本大震災後の地域住民における腎機能と関連因子.
3. 学会等名 第76回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村智洋, 中谷直樹, 土屋菜歩, 成田 暁, 小暮真奈, 丹野高三, 佐々木亮平, 坂田清美, 菊谷昌浩, 高井貴子, 菅原準一, 栗山進一, 辻 一郎, 吳 繁夫, 竇澤 篤.
2. 発表標題 東日本大震災後の家屋損壊程度と体脂肪率の関連: 地域住民コホート調査.
3. 学会等名 第76回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中谷直樹, 成田 暁, 中村智洋, 土屋菜歩, 小暮真奈, 丹野高三, 坂田清美, 菊谷昌浩, 高井貴子, 菅原準一, 栗山進一, 辻 一郎, 吳 繁夫, 竇澤 篤
2. 発表標題 地域住民コホート調査における家屋の被害の程度と平均歩数の関連.
3. 学会等名 第76回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坪田 恵, 高梨信之, 佐々木亮平, 丹野高三, 竇澤 篤, 栗山進一, 辻 一郎, 坂田清美.
2. 発表標題 被災地域では仮設だけでなくみなし仮設住居者も食事摂取不良のリスクとなる.
3. 学会等名 第76回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 辻 一郎
2. 発表標題 宮城県における東日本大震災の健康課題とエビデンス
3. 学会等名 第28回日本疫学会学術総会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土屋菜歩, 中谷直樹, 中村智洋, 成田 暁, 小暮真奈, 菊谷昌浩, 菅原準一, 栗山進一, 辻 一郎, 呉 繁夫, 竇澤 篤
2. 発表標題 東日本大震災後の夫婦における生活習慣の共有度についての検討
3. 学会等名 第28回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村智洋, 中谷直樹, 土屋菜歩, 成田 暁, 小暮真奈, 丹野高三, 佐々木亮平, 高梨信之, 坂田清美, 菊谷昌浩, 菅原準一, 栗山進一, 辻 一郎, 呉 繁夫, 竇澤 篤.
2. 発表標題 東日本大震災による家屋損壊の程度とメタボリック症候群の構成要素
3. 学会等名 第28回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中谷直樹, 成田 暁, 土屋菜歩, 中村智洋, 小暮真奈, 丹野高三, 坂田清美, 菊谷昌浩, 菅原準一, 栗山進一, 辻 一郎, 吳 繁夫, 竇澤 篤.
2. 発表標題 東日本大震災の被災者における高い平均歩数と関連する要因: 地域住民コホート調査
3. 学会等名 第28回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土谷昌広, 相田 潤, 萩原嘉廣, 菅原由美, 遠又靖丈, 佐藤真理, 渡邊 崇, 富田博秋, 根本英二, 渡邊 誠, 小坂 健, 辻 一郎.
2. 発表標題 東日本大震災被災者における不眠症と口腔愁訴との関連.
3. 学会等名 第39回日本疼痛学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 片柳光昭, 瀬戸 萌, 根本晴美, 菅原由美, 中谷直樹, 中村智洋, 土屋菜歩, 成田 暁, 小高 晃, 辻 一郎, 竇澤 篤, 富田博秋.
2. 発表標題 東日本大震災被災コミュニティの就労状況と精神的健康に関する縦断的研究.
3. 学会等名 第36回日本社会精神医学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 萩原嘉廣, 矢部 裕, 関口拓矢, 渡邊 崇, 菅原由美, 辻 一郎, 井樋栄二.
2. 発表標題 東日本大震災被災者の抱える運動器愁訴の縦断調査.
3. 学会等名 第90回日本整形外科学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 関口拓矢, 萩原嘉廣, 菅原由美, 丹治史也, 遠又靖丈, 矢部 裕, 小出将志, 板谷信行, 吉田新一郎, 辻 一郎, 井樋栄二.
2. 発表標題 東日本大震災被災者における主観的経済状況が肩こりに与える影響: 前向きコホート研究.
3. 学会等名 第90回日本整形外科学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 東日本大震災時における災害対応経験と次への備え
3. 学会等名 第105回日本泌尿器科学会総会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 大規模災害対応に関する未来への提言-東日本大震災の経験を踏まえて-東日本大震災時における災害対応経験とその後の取り組み
3. 学会等名 第54回日本小児外科学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 東日本大震災時における災害対応コーディネーションと次への備え
3. 学会等名 日本脳神経外科学会第13回FDコース (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 東日本大震災時における災害対応経験と次への備え
3. 学会等名 第90回日本整形外科学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 災害医療-あらためて災害医療を考える-東日本大震災時における災害対応経験とその後の取り組み
3. 学会等名 第60回日本腎臓学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 東日本大震災時における災害対応経験とその後の取り組み
3. 学会等名 第116回日本皮膚科学会総会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 石巻医療圏における東日本大震災への対応と次への取り組み
3. 学会等名 第13回日本クリティカルケア看護学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tadashi Ishii, Kazuma Morino, Yoshikazu Maruyama, Takuya Uozumi, Kuniharu Takahashi
2. 発表標題 Action of the Disaster Medical Coordination Workshops in Japan Held by ACT Institute of Disaster Medicine.
3. 学会等名 6th World Congress of Clinical Safety (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 「病院運営プログラム」災害に対して、病院はどう備えるかー東日本大震災の経験からー
3. 学会等名 第71回日本臨床眼科学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 東日本大震災における石巻赤十字病院の活動とその後の取り組み
3. 学会等名 第53回日本赤十字社医学会総会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 災害医療ACT研究所による災害医療コーディネート研修会の取り組み
3. 学会等名 第23回日本集団災害医学会総会・学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井正
2. 発表標題 東日本大震災時における災害対応経験とその後の取り組み
3. 学会等名 第14回日本消化管学会総会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木宏之
2. 発表標題 災害時の事業継続戦略に応じた医療機関受援計画の立案について
3. 学会等名 第23回日本集団災害医学会総会・学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 東北大学災害科学国際研究所	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 230
3. 書名 東日本大震災からのスタート	

1. 著者名 野波 健蔵	4. 発行年 2020年
2. 出版社 オーム社	5. 総ページ数 320
3. 書名 続・ドローン産業応用のすべて	

1. 著者名 日本医師会、横田 裕行、大友 康裕、小井土 雄一、山口 芳裕、跡見 裕、石川 広己	4. 発行年 2020年
2. 出版社 メジカルビュー社	5. 総ページ数 376
3. 書名 災害医療2020	

1. 著者名 菅原由美, 辻 一郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京法規出版	5. 総ページ数 4
3. 書名 別冊地域保健「いのちと健康を守る 避難所づくりに活かす18の視点」	

1. 著者名 M.Okumura, J.Kim	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 44
3. 書名 Transportation in Disasters: Lessons Learned from GEJE 2011 (Routledge Handbook of Transport in Asia)	

1. 著者名 Egawa S, Murakami A, Sasaki H.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Springer, Switzerland	5. 総ページ数 485
3. 書名 Healthy Community Resilient against Disaster. Pp 139-152, (In Santiago-Fandino V., Sato S. & Iuchi K. (Eds.), The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and Restoration. Insights and Assessment after 5 Years.)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

東北大学 災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野 研究実施に関する情報公開
<http://www.irides-icdm.med.tohoku.ac.jp/presentation.html>
 東日本大震災当時の南三陸町における避難所・在宅診療の医療ニーズ解析疫学研究
<http://www.irides-icdm.med.tohoku.ac.jp/pdf/minami2020-12-09.pdf>
 東日本大震災当時の気仙沼市における避難所・在宅診療の医療ニーズ解析疫学研究
<http://www.irides-icdm.med.tohoku.ac.jp/pdf/k-2020-12-10.pdf>
 東日本大震災当時の石巻圏合同救護チームによる避難所・在宅診療の医療ニーズ解析疫学研究
<https://www.med.tohoku.ac.jp/public/doc/2018-1-315.pdf>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	奥村 誠 (Okumura Makoto) (00194514)	東北大学・災害科学国際研究所・教授 (11301)	
研究分担者	石井 正 (Tadashi Ishii) (00650657)	東北大学・大学病院・教授 (11301)	
研究分担者	辻 一郎 (Tsuji Ichiro) (20171994)	東北大学・医学系研究科・教授 (11301)	
研究分担者	中山 雅晴 (Masaharu Nakayama) (40375085)	東北大学・医学系研究科・教授 (11301)	
研究分担者	金谷 泰宏 (Kanatani Yasuhiro) (40506317)	東海大学・医学部・教授 (32644)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	佐々木 宏之 (Sasaki Hiroyuki) (90625097)	東北大学・災害科学国際研究所・准教授 (11301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
インドネシア	バンドン工科大学			